

ゆずりは通信

第25号 平成26年10月10日(隔月発行)

発行：ゆずりはの会事務局

電話：0565-35-7182

Eメール：takekaki@hm8.aitai.ne.jp

ホームページ：

<http://www.hm9.aitai.ne.jp/~warabino/>

平成25年12月定例会

12月10日(火) 午後7時～ 福祉センター 34会議室 参加は13名

- * 竹内さんから、老人クラブの現状について、話題提供がありました。
高齢者は増えているけど、老人クラブの活動は右下がりであるなどの話でした。
- * 林さんから「住民の幸福度実感向上を目指す基礎自治体連合」の紹介がありました。
豊田市も参加しているが、ほとんどの人は知らないで、施策も始められていない、とのお話でした。

平成26年 2月定例会

2月11日(火) 午後7時～ 福祉センター 34会議室
参加は15名

- * 1月18, 19日に開催された「地域密着型福祉全国セミナー」に参加された方から、感想・意見などの発表がありました。

地域密着型福祉全国セミナーに参加して、印象に残った事

- * 引きこもり対策 秋田県藤里町 社協 菊池まゆみ
社協が、ひきこもり対策事業を実施。共同事業所「こみっと」が活動拠点で、再就職まで、面倒を見る。福祉で町づくりを目指している。
- * 個を認め合うこと 豊田市 ユートピア若宮 木本光宣
知らないこと、何もしないことが差別につながることもある。
東京の鉄道と名鉄で、車椅子利用者に対する対応の違いがある。
- * 福祉と農業 同志社大学教授 上野谷加代子
人を守るのが福祉。そのためには森林を守り農業に携わる人達といっしょに進める事も大切。豊田市は工業だけでなく、自然が豊かで農業も盛んとの印象を持つ。
- * すゞの会 川崎市 鈴木恵子
ご近所サークルを、ボランティアの有志が自宅を開放し開催したり、当事者の自宅で開催。

「社協に資金支援を頼む時は何度断られても諦めないでしつこく求め続けること」という
アドバイス…(熱意と根気ですね)

- * 書家 名古屋市大須生まれ 矢野きよみ
書を書いてもらうことで、福島の子どもの声を聞く。

- * 車椅子のアーティスト 愛知県出身 佐野有美
先天性四肢欠損症で生まれ、短い左足と3本の指のみ。車いすで生活。
詩集「あきらめないで」から選ばれた詩が作曲され CD となる。

- * パスまちサロン会 豊田市稲武町 山田良稲
中年男性の飲み会で盛り上がり(コミュニケーションはノミネーションから)
母親が美容院に行くのに、バス待ち時間が長い、とのつぶやきがヒント

- * 石畳自治区 豊田市 藤岡町 有田美喜子
360 世帯 1300 人の町で、ご近所支え事業を推進。自治区の組を単位に、
懇親会の開催を推進して、住民の交流を盛んにする。

- * 厚生労働省 古都賢一
国からの全額補助でも、地方自治体を実施しない事業がある。
例えば、安心生活創造事業。(一つの例・林さんの説明:南知多市では、一人暮らし高齢者の
家を、選任の職員が巡回訪問をしている)。

- * 豊田市長 太田稔彦
新聞や雑誌に掲載された写真から、目立ちがり屋だと思っていたが、話を聞いた
たら、謙虚さを持ち合わせている人だと思った。

平成26年3月定例会

3月11日(火) 午後7時～ 福祉センター 34会議室
参加は12名

- ⇒1月18, 19日に開催された「地域密着型福祉全国セミナー」について
2月の定例会で、印象に残った項目の発表(A4資料)があったが、この各項目について、
意見交換を行った。

- ⇒2月22日、愛知ホスピス研究会の総会の報告
 - * 徳島さん、竹内公子さんが参加。
 - * パネルディスカッション
～ひとり暮らしの方が「安心して住み慣れた自宅で最期まで暮らされる」ことを支える
訪問看護の関わり～

- * パネリストの一人は、豊田地域医療センターに付設されている訪問看護ステーション管理者 の加納看護師でした(ゆずりはの会でお話されたことがある)

平成26年4月定例会

4月8日(火) 午後7時～ 福祉センター 34会議室 13名が参加

<話題>

- * 介護保険制度の改正案について … 栗山
地域包括ケアシステムの構築について
- * 豊田市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会(3/14)の様子 … 竹内一良
- * 本の紹介 「1/4の奇跡」 山元加津子・柳澤桂子著 … 竹内公子
人類の進化の過程では、病気や障がいが起こる。
- * がんのピアサポート : ミーネットみかわ

平成26年5月定例会

5月13日(火) 午後7時～ 福祉センター 34会議室 2人の講師と15人が参加

話題: 立案中の地域福祉計画について …

地域福祉課係員 新實さん、江崎さん

配布資料3点

豊田市地域福祉計画・豊田市地域福祉活動計画 策定の方向性について

豊田市地域福祉に関する市民アンケート調査<調査結果・概要版>

豊田市地域福祉計画策定に係るワークショップ 結果報告書

さまざまな質問・意見が出されて、時間が足りない感じだったこともあり、福祉計画の立案がもう少し進んだ段階で、又話し合うチャンスを作ることを考えています。

平成26年6月定例会

6月10日(火) 午後7時～ 福祉センター 34会議室 1人の講師と16人が参加

* 話題提供

NPO 法人「心と絆」 : 加藤みつ子さん

「質の高い看護と介護」

* 概要

1. 介護関係

平成12年に、豊田市女性国際交流派遣研修に参加し、ノルウェーとデンマークを訪れた。デンマークにおける「在宅介護の柱は、“地区医”とそこを拠点とする“ホームケアベース”と呼ば

れる施設である。医師・看護師・ホームヘルパーがチームを組んで活動を行っており、ユーザーからの呼出には、看護師が10分以内に到着できる仕組みが出来ている。
こうした体制に支えられて、高齢者の96%は、自宅に暮らし、そのうち71%は、自立しており、25%が、在宅介護サービスを受けている。

デンマークでは、子どもが、親の面倒を見ると言うより、国が面倒を見る体制を作っている。税金は、収入の50%と高いが、良いサービスのためと納得している。
当時、日本の介護体制は、25~30年遅れていると言われていた。前後して始まった介護保険制度が、定着してきているが、今はどうだろうか？
昨年、「心と絆」というNPO法人を立ち上げ、24時間×365日世話をするサービス体制を立ち上げた。始めてみて、そうしたサービスに対応する報酬を得ることが、日本では難しいことが分かって、今は休止している。

2. 豊田市での仕組み作り

平成13年に、「豊田市生きがいつくり推進会議(17人)」に所属して、議論を重ね、3つの提案をした。

- ① 高齢者体験農場事業
- ② 高年大学の開校
- ③ ヤングオールドサポートセンターの開設

いずれも実施に移され、今も豊田市のユニークな事業として続いている。

* 意見交換

お話の後、ゆずりはの会の会員の自己紹介、そして意見交換を行った。

平成26年7月定例会

7月8日(火) 午後7時~ 福祉センター 34会議室 12人が参加

* 話題提供

報告「あいちホスピス研究会公開講座に参加して」 ..

1. 第3回 暮らしの中で死に逝くこと : 市原美穂

河野さんが参加

- * ホームホスピス宮崎を設立する。
- * 1施設当たり、入居者5人とスタッフ5人で、疑似家族を構成する。
- * 在宅緩和医療体制が整ってきても、家族の介護力が無い人は、そのサービスを受けることが出来ない。こうした人に手を差し伸べた点で、画期的と言える。
- * 資金的には、苦しいと思われるので、何らかの支援があると良い。

2. 第4回 生き方のコツ 死に方の選択 高橋卓志

竹内が聴講

* 松本市の神宮寺住職

仏教者としての役割を果たしていない寺や僧侶を批判してきた。

葬儀のすべての面倒を見る葬儀社、高齢者を扱う祉施設なども経営。

* 多くの死とかかわってきたが、それらを第3者として見てきた。

歳を重ね、自分の死と向かいあうことが現実味を帯びてきた。不安になってきた。

どう受け止めたらよいかを探すために先進地である欧州の施設を回り、

人と会って話を聞いてきた。

その内容を今消化中。

南知多町の高齢者見守り制度を紹介

* 人口2万人の町

* 75歳以上の一人暮らし高齢者を、町の職員が手分けして、2ヶ月に1回訪問している。

* 豊田市では、主に民生児童委員の役割であるが、全員をくまなく回るのは大変である。

この町は町の職員が行っている点の特徴。

(民生児童委員と担当区分を話し合っている。)

* 豊田市の担当課も、他の市町村のこうした制度を学び、話合いのまな板に載せることが必要ではないか。

平成26年9月定例会

9月9日(火) 午後7時～ 福祉センター 34会議室 12人が参加

テーマを持ち寄って、自由な話し合いを行いました。

* 近くのお寺に、永代墓の申し込みをした。遠くに暮らす子供たちに、墓の世話をする負担をかけることを避けた。

* キリスト教だと、共同墓が多く、信者の集団として面倒を見てゆくやり方が一般的である。

* お墓を作るとお寺との付き合いが始まり、なかなか出費も多い。兄弟や親せきとの関係があり、簡単に動かすことが出来ない。

* お墓の敷地は確保した。今日の話聞いて「ただお墓をつくれればよい」と思っていたがもう一度よく考えたい。

* 「みらいのふつう」と言う言葉を太田市長がよく口にされる。「今のふつう」がはっきりしない中で、未来を語れるのでしょうか。

* 先日の大雨の時に、民生児童委員の一部に対して、「災害時要援護者を避難所に連れてゆく」ように指示が出された。いろいろ問題を感じた。まず、どんな情報が、どのようなルートで流されるのか。

誰と誰がどこに集まって、行動を起こすか。どこへ避難させるのか。

そこまでやらせるのか。

- など、判断を迫られる体験をしたことで、仕組みの不備も明らかになった。
- * 市民活動センターで、毎月トークの日が開かれる。誰もが、テーマを提案して、主催できる。ゆずりはの会が担当することもありうる。
 - * 豊田市平和を願う戦争展に行った。池住義憲氏の講演
安部政権が戦争の準備行為を行っているのに対して、どう考えたらよいのか。
 - * 若い人達が戦争のことを知らない。集団自衛権の問題を議論する時に、あまりに簡単に国を守るなどと言っている。もっと戦争のことを、教えなくてはいけない。
近くに特攻隊員の訓練場があった。休日になると訓練生が訪ねてきた。サツマイモや餅など食べる物を提供した。食料の調達もままならなかったのだろう。
 - * 「死後の世界が本当にあるのか」について書かれた本がある。
近日中に、立花隆が出演するテレビ番組が放映される。
 - * 著名な民俗学者が、特養で、お年寄りから色々な話を聞いて文章にする活動を行っているとの新聞記事があった。
 - * 自然エネルギーに関心がある。
バイオエネルギー水力、スターリングエンジンを使った発電など、試作機を作ってみたい。
 - * 介護保険制度が変更される。
平成 27 年 4 月以後、介護保険の自己負担が 1 割から 2 割に増額される。この話題については、時間が無かったので、次回 10 月に説明いただく。